

令和2年度公共事業事後評価対象事業に関する質問事項及び回答

質問者	南 委員		
番号	R2-1	事業名	復旧治山事業
地区名等	矢吹沢（三戸町）		
(質問等)			
<p>1. 総事業費について 調書1/3の「R2年最終実績」は152百万円となっているが、調書2/3の「参考（費用便益比）」では192百万円となっている。総事業費と総費用は異なる項目なのか。 ※他の事業（R2-2とR2-3）でも同様</p> <p>2. 調書3/3の「3 まとめ」について 「改善措置の必要性」の最後に「地元説明会や広報紙等を活用して、理解に努める必要がある。」との記載があるが、これはR2-1事業で説明会を「実施予定」、あるいは、「実施済」という意味か。それとも、今後、同種の事業に対しての留意点ということか。</p> <p>3. 別紙「費用対効果分析説明資料」の「便益項目（B）」について 前回（H25）の1,513百万円より事後評価時（R2）が1,940百万円と増加している。年月を経て資産価値が下がり便益が減るのではと予想していたが、「単価等の見直し及び社会的割引率の基準年を反映したことによる増加」との記載となっている。増加した主な項目は何か。また、単価がどのように変わったのか。</p>			
(回答)			
<p>1. 総事業費について 「総事業費」の152百万円は、「最終実績額」です。 「総費用」の192百万円は、「最終実績額」152百万円に、社会的割引率（4%）を用いて、令和2年を基準年に割り戻した現在価値化としますので、増加します。</p> <p>2. 調書3/3の「3 まとめ」について 「地元説明会や～必要がある。」とは、今後の同種の事業に対しての留意点です。これまで地元説明会は行ってありますが、これまで以上に治山ダム等の効果について御理解いただけるよう努めていきます。</p> <p>3. 別紙「費用対効果分析説明資料」の「便益項目（B）」について 土砂流出防止便益の増加した理由は、社会的割引率（4%）を用いて、令和2年を基準年に割り戻した現在価値化としますので、過去分が割増ししたことが要因です。 また、単価は、林野庁の「林野公共事業における事業評価マニュアル」に基づき、算出因子が「1 m3の土砂を保全するために要する単位当たりの砂防ダム建設コスト」から「下流のダムに堆積した1 m3の土砂を除去するコスト」に変更となり、単価は5,600円/m3から4,115円/m3となりましたが、全体への影響は少なかったものです。</p>			

質問者	南 委員		
番号	R2-2	事業名	県道改築事業
地区名等	弘前田舎館黒石線 畑中工区（田舎館村）		
<p>(質問等)</p> <p>調書2/3の「事業効果の発現状況」の《金銭価値化が可能な効果》で「⑤大型車すれ違い困難区間の解消」が「防災便益」として扱われている。すれ違い解消が何故防災となるのか。</p>			
<p>(回答)</p> <p>「道路整備事業における県独自の費用便益分析実施要綱」において、追加便益項目の一つとして防災便益（通行危険箇所等の解消による効果）が設定されております。</p> <p>防災便益では、道路が整備されることにより、通行危険箇所が解消されるなど、防災等の効果が現れるケースがあり、①大型車すれ違い困難区間の解消、②異常気象時通行不能区間の解消、③通行危険箇所区間の解消が図られることによる価値を便益として追加計上するものとされております。</p>			

質問者	南 委員																							
番号	R2-3	事業名	流域治水対策河川事業																					
地区名等	堤川（青森市）																							
(質問等)																								
<p>1. 調書3/3の「事業により整備された施設の管理状況」について 「現在まで浸水被害は発生していない」との記述があるが、平成27年完成後の5年間に、昭和44年の被害時に相当する降雨量はあったのか。あるいは、完成後の5年間の最大降雨量は昭和44年の時のどの程度（何割）に相当するのか。</p> <p>2. 調書3/3の「3 まとめ」の「改善措置の必要性」について 「今後も、地域住民との情報交換を行い、状況に応じて改善措置を取るとともに適正な維持管理に努める必要がある。」と記載されているが、今後、特に定期的な土砂や雑木撤去等の管理、および住民との情報交換をする予定はあるのか。</p>																								
(回答)																								
<p>1. 昭和44年洪水時と比較可能な気象庁の青森観測所の観測データを確認した結果、昭和44年8月洪水時の24時間降水量は120.0mmだったのに対し、本事業完了後5年間ではこれに相当する降雨はありませんでした。なお、この5年間における最大24時間降水量は平成30年5月の98.0mmであり、これは昭和44年洪水時の81.7%（約8割）に相当します。</p> <table border="1" data-bbox="226 1193 1050 1509"> <thead> <tr> <th>年最大降水量 生起年月</th> <th>24時間降水量 (mm)</th> <th>昭和44年8月洪水に 対する比率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昭和44年8月</td> <td>120.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>平成28年8月</td> <td>81.0</td> <td>67.5</td> </tr> <tr> <td>平成29年10月</td> <td>77.5</td> <td>64.6</td> </tr> <tr> <td>平成30年5月</td> <td>98.0</td> <td>81.7</td> </tr> <tr> <td>令和元年8月</td> <td>97.0</td> <td>80.8</td> </tr> <tr> <td>令和2年7月</td> <td>77.5</td> <td>64.6</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※青森観測所（気象庁）データによる</p> <p>2. 河川の維持管理における定期的な対応として、河川パトロールや河川管理施設の点検、市町村からの聞取りを行っています。今後も、これらを踏まえながら、状況に応じて土砂や雑木の撤去等の改善措置を取るとともに、地域住民からの要望がある場合は意見交換を行いながら、適正な維持管理に努める必要があると考えています。</p>				年最大降水量 生起年月	24時間降水量 (mm)	昭和44年8月洪水に 対する比率 (%)	昭和44年8月	120.0	100.0	平成28年8月	81.0	67.5	平成29年10月	77.5	64.6	平成30年5月	98.0	81.7	令和元年8月	97.0	80.8	令和2年7月	77.5	64.6
年最大降水量 生起年月	24時間降水量 (mm)	昭和44年8月洪水に 対する比率 (%)																						
昭和44年8月	120.0	100.0																						
平成28年8月	81.0	67.5																						
平成29年10月	77.5	64.6																						
平成30年5月	98.0	81.7																						
令和元年8月	97.0	80.8																						
令和2年7月	77.5	64.6																						